

教科	技術・家庭(家庭分野)	学年	第1学年
----	-------------	----	------

単元名	時数	単元の到達目標(小単元のねらい)	単元のまとりの評価規準		
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
ガイダンス A家族・家庭生活 1.自分の成長と家族・家庭生活	3	○小学校家庭科の学習を振り返るとともに、3学年の学習内容の見直しをもつ。 ○自分の成長と家族や地域の人びとのかかわりと自分自身の理解を深める。 ○家庭での活動を考え、家族・家庭の基本的な機能について理解する。 ○自分や家族の生活は家庭内や家庭外の活動が支えていることに気付く。 ○家族には互いの立場や役割があり、居力することで家族関係をよりよくなることを理解する。	・家庭や家族の基本的な機能、家庭生活と地域との関わりについて理解している。 ・家庭や家族の重要性に気づき、家族の一員として自分ができることを理解している。 ・家庭生活が地域の人々と協力・協働して家庭生活を営む必要があることに気付いている。 ・家族の互いの立場や役割について理解している。 ・家族と協力することによって家族関係をよりよくなることについて理解している。	・家族とのかかわりについて問題を見いだして課題を設定している。 ・家族とのかかわりについて解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現している。	・中学校での学習内容に興味をもち、3年間の見直しをもとうとしている。 ・家族とのかかわりについて、課題の解決に主体的に取り組もうとしている。 ・家族とのかかわりについて、課題解決に向けた一連の活動を振り返って改善しようとしている。 ・よりよい家庭生活の実現に向けて、家庭生活について工夫し創造し、実践しようとしている。
B衣生活 1.目的に応じた衣服の選択	6	○衣服の社会生活上のはたらきがわかる。 ○自分らしい着方を工夫することができる。 ○和服の文化に関心をもち、和服の着方を知る。 ○自分の衣服計画が立てられる。 ○既製服を選ぶポイントがわかる。	・衣服と社会生活との関わりについて理解している。 ・目的に応じた着用について理解している。・個性を生かす着用について理解している。 ・衣服と社会生活との関わりについて理解している。 ・衣服の計画的な活用の必要性について理解している・衣服の材料や状態に応じた日常着の手入れについて理解している。	・衣服の選択について問題を見いだして課題を設定している。 ・衣服の選択について、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現している。	・衣服の選択について、課題の解決に主体的に取り組もうとしている。 ・よりよい生活の実現に向けて、衣服の選択について、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。
B 衣生活 2.日常着の手入れと保管	4	○衣服の状態に応じた手入れの必要性がわかり、適切な手入れができる。 ○取扱い表示の意味を理解し、衣服の素材に適した手入れの方法を選択できる。 ○衣服の素材に合った洗剤を選び、適切な量を使用できる。 ○衣服の傷みの状況に合わせた方法で補修ができる。 ○衣服に合わせた方法でアイロンかけや収納・保管を適切に行うことができる。	・衣服の材料や状態に応じた日常着の手入れについて理解している。 ・衣服の材料や状態に応じた日常着の手入れについて理解しているとともに、適切にできる。	・日常着の手入れについて問題を見いだして課題を設定している。 ・日常着の手入れについて解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現している。	・日常着の手入れについて、課題の解決に主体的に取り組もうとしている。 ・よりよい生活の実現に向けて、日常着の手入れについて、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。
B 衣生活 3.生活を豊かにするものの製作	9	○布を用いて生活を豊かにするものを考える。 ○製作の計画を立て、手縫いやミシン縫いで生活を豊かにするものをつくる。	・製作方法を知り製作方法の手順を考えることができる。 ・基礎的なミシン縫いや補修の技能を活用して安全で能率よく製作できる。 ・ミシンの基本操作を習得し正しく安全に使うことができる。しるしに沿って正しく安全に基礎的なミシン縫いができる。 ・ミシンを使用する前後の点検、簡単な調整の方法について理解している。	・布を用いた物の製作の計画を立てるにあたり、安全で能率よく進める方法を考え工夫している。 ・ミシンやアイロンの安全で適切な取り扱いができる。	・布を用いて生活が豊かになる物を考え、製作の計画を立てようとしている。 ・布地や部位に応じた適切な縫い方や始末の仕方を知る。
生活の課題と実践	4	○今まで学習してきた「家族・家庭生活」「衣食住の生活」「消費生活・環境」の中からほかの内容とも関連させて課題を設定して、課題解決に向けて計画を立て実践できる。 ○実践したことをまとめ、発表し、よりよい生活にするための新たな課題を見つけ次の実践につなげられる。	・自分や家族の衣生活や環境について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどしている。	・よりよい生活の実現に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。	
B 食生活 4.日常食の調整	2	○調理の流れと手順がわかり、計画をたてることができる。	・調理用具や食材の安全・衛生に注意し、基本的な調理ができる。	・調理の手順や時間配分を考え、実習計画を工夫している。	・安全・衛生に配慮しながら仲間と協働し、調理に取り組もうとしている。
B 住生活 1.住まいのはたらきと「こちよき	3	○住まいの基本的な役割について理解する。 ○日本の伝統的な住まいの特徴を知る。 ○住まいの空間の使い方について理解する。 ○さまざまな生活によって、住まい方の工夫があることを理解する。	・住居の基本的な機能について理解している。 ・家族の生活と住空間との関わりが分かりかについて理解している。	・住生活について問題を見いだして課題を設定している。 ・家族の安全を考えた住空間の課題について、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現している。	・よりよい衣生活を指して、衣服の選択や手入れ、製作などについて、工夫し創造し、実践しようとしている。
B 住生活 2.安全な住まいで安心な暮らし	3	○家庭内の事故の種類と、その原因を知る。 ○幼児や高齢者の安全を考えた住まい方について工夫する。 ○地域さまざまな災害に備えて、室内を安全に整備する必要とその方法について理解する。	・家庭内の事故の防ぎ方など家族の安全を考えた住空間の整え方について理解している。 ・自然災害への事故の防ぎ方など家族の安全を考えた住空間の整え方について理解している。	・住生活について問題を見いだして課題を設定している。 ・家族の安全を考えた住空間の課題について、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現している。	・家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、住居の機能と安全な住まい方について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。
B 住生活 3.持続可能な住生活	1	○持続可能な社会の実現に向けて、さまざまな住まいと住まい方の工夫があることを知る。	・社会や環境に配慮した住生活について問題を見いだして課題を設定している。 ・社会や環境に配慮した住生活について考え、工夫している。	・自立した消費者として、社会や環境について、課題の解決に主体的に取り組む、工夫し創造し、実践しようとしている。	